

行政視察報告書

参加議員	立憲民主・社民党派 蛸名和子、藤田誠、小熊ひと美
調査期間	令和6年1月31日（水）
調査先 及び 調査事項	富山県南砺市 「福光美術館の運営体制について」

視察概要

■ 調査先 富山県南砺市

■ 調査事項 南砺市立福光美術館について

■ 調査内容

1 調査日 令和6年1月31日（水）

2 調査目的

青森市の「棟方志功記念館」は、一般財団法人棟方志功記念館が運営しているが、令和5年度末をもって閉館となる。

一方、富山県南砺市では、市が「南砺市立福光美術館」、美術館分館「愛染苑」を運営し、棟方志功画伯の作品を展示・顕彰している。南砺市と棟方志功画伯との関わりや美術館の運営等について調査する。

3 対応者

南砺市議会 副議長 石川 弘
 南砺市議会事務局総務係長 吉本 幸治
 南砺市立福光美術館 館長 片岸 昭二
 南砺市立福光美術館 主幹 石本 裕

4 調査事項の説明（質疑応答形式で実施）

問 棟方志功画伯は戦時中、南砺市（福光町）に疎開されていたそうだが、市民と画伯との関わりについて。

答 真宗王国富山の中でも特に信仰心に篤い土地柄で、寺と人とのつながりが非常に深く、日常的に寺が集いの中心となっていた。その交流の中で顔見知りが増え、県内外を問わず多くの人々との交流が棟方の創作意欲の源となった。その交流の中で、地元小学校などへ作品が贈られたほか、書道教室を開催し、大人ばかりでなく、各地域で地域の子供たちと交流した。

問 南砺市として棟方志功画伯を顕彰するに至った経緯について。

答 地域住民との幅広い交流の中、まちづくり、地域活性化に役立てるべく県補助事業（まちづくりモデル事業）を活用して、駅前整備事業や歴史と文化の薫るまちづくり事業（県補助事業）により、棟方資料館等の整備を市と商工会が中心となって実施した。

問 南砺市立福光美術館設立の経緯と概要について。

答 【経緯】

福光町生まれの画家“石崎光瑶”^{いしざきこうよう}の遺作を寄贈したいとの家族の意向が福光町に伝えられ、美術館建築を前提に寄贈を受けることを福光町として決定。美術館建設検討委員会を発足し、平成6年に開館。その後、棟方志功作品も収蔵。

【収集活動及び方針】

棟方志功が福光疎開時代に制作したゆかりの深い作品の収集に力を入れる。また、疎開時代以外の作品であっても、展覧会出品作品など優れた作品や資料価値の高い作品の収集に努める。

石崎光瑶は、展覧会出品作品を中心に収集に努める。代表作を核に、展示にふさわしい格調高い作品や資料価値が高いもの、関係資料等も幅広く収集する。

上記の作家以外の作品については、次世代に美術文化を継承するにふさわしい、優れた作品を評価したうえで、購入または寄贈により収集する。

【入館者数】

単位：人

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
福光美術館	20,329	14,476	20,492(12/28まで)
愛染苑	2,498	3,371	3,734(11/30まで)

【職員体制】

館長、副館長、主幹、主事
学芸員（会計年度任用職員）3名
受付・監視員（会計年度任用職員）11名
棟方志功資料調査（会計年度任用職員）4名

【建設費】

平成6年3月工事費 建築主体、外構、機械、電気を合わせ約8億9000万円
平成27年6月増築工事費 建築主体、外構、機械、電気を合わせ約4億3000万円

【運営費（令和5年度予算）】

美術館 3690万円、愛染苑 432万円

【人件費（会計年度任用職員）】

美術館 2237万円、愛染苑 464万円

問 棟方志功画伯のゆかりの施設の概要と活動体制について。

答 【ゆかりの施設】

○（分館棟方志功記念館）^{あいぜんえん}愛染苑

福光時代の棟方の協力者・石崎俊彦氏の旧居に建てられた記念館。石崎氏が所蔵する多数の棟方作品と資料、土地を福光町（当時）に寄贈。昭和57年に展示館として開設。

○^{りうがさい}鯉雨画齋

旧棟方志功住居。昭和21年、石崎氏から土地の提供を受け、家を「愛染苑」、中に

設けた画室を「鯉雨画斎」と名付ける。棟方の帰京後に別の土地に移転したが、平成13年元月の場所（現在棟方志功記念館「愛染苑」が建っている場所）の道路を挟んで対面する位置に再移動。改修を行い公開。

○民芸館「青花堂」
しょうげどう

「愛染苑」敷地内、棟方家住居の東側に石崎氏が一間きりの自宅を建て住んだ。共通の井戸を使い、棟は違うが棟方の仕事を手伝っていた。現在は、石崎氏が福光町に寄贈した家を増改築し、蒐集品を展示。平成16年に公開。

○棟方志功資料館

愛染苑の雑庫としていた民家を改修。交流のあった人々に関する資料などを展示する施設として平成28年に開館。

【活動体制】

福光美術館分館である棟方志功記念館「愛染苑」が管理し、来館者への案内、解説などを行っている。

問 南砺市棟方志功まちづくり協議会の概要と活動内容について。

答 ○南砺市棟方志功まちづくり協議会

各種団体の連携により、棟方画伯を生かしたまちづくりを目指すことを目的に、平成28年に設立。画伯の命日9月13日を中心に、棟方まつりを開催し、愛染忌法要・記念講演会を開催するなどの活動。

○福光美術館・愛染苑友の会

福光美術館と愛染苑の関連施設の協力・支援活動、地域の芸術文化の向上、会報の発行などの事業を通し、福光美術館、愛染苑の発展、南砺市の文化振興を図る。

問 画伯にゆかりのあった場所に案内板を設置していると聞いているが、他に工夫されていること、観光に生かしている点について。

答 観光ボランティアグループ「麻のれん」による、棟方の足跡をたどる「徑道めぐり」などを行い棟方の魅力を観光客に伝える活動を行っている。

問 棟方志功顕彰における経済的な面での効果について。

答 福光美術館では常設展示（展示替：年4回）、愛染苑での展示（展示替：年4回）を行うことで、年間を通じてファンが訪れている。来館者のうち、金沢市観光から流れてくる人も約30%いる。

南砺市棟方志功まちづくり協議会、愛染苑友の会、福光美術館が協力して行事を行うことで、より広くPRができ集客につながっている。

問 南砺市における現在の棟方志功画伯研究の様相について。

答 棟方志功孫の石井頼子氏による棟方志功資料などのデータベース化を進めている。（公開予定：令和7年度）

今後は、青森県立美術館との連携協定による情報交換により、志功画伯の作品や資料等についてより深く調査を行う予定である。

問 青森市では、棟方志功記念館が3月で閉館となり、作品は青森県立美術館に移管となる。

今後は記念館の建物と庭は残す方向で検討される予定だが、市立美術館を設立して画伯の

顕彰を進めている貴市から、運営上で参考になる点をご教示いただきたい。

答 地元市民の協力が必要である。当館も協議会や友の会など市民団体などの連携協力なしでは運営は困難だと思われる。

5 所感

以上の説明のほか、南砺市は、昨年、補正予算で新たに発掘された棟方志功の作品を1500万円で購入したとのことだった。いかに、南砺市と地元市民が棟方志功作品を愛し、大事にしているか実感できた。

青森市の棟方志功記念館の作品は青森県立美術館で収蔵・展示されるとのことだが、南砺市と同様、青森市として作品の展示の運営を引継ぐことを要望したい。

(参考) 南砺市 令和5年度一般会計当初予算約331億3000万円、人口約5万人